

バランスシートと行政コスト計算書を公表

45ページで平成19年度決算の状況をお知らせしましたが、これに基づき、資産と負債の関係を明らかにした「バランスシート」と、行政サービスを行うためにどのくらいのコスト(費用)がかかっているかを表した「行政コスト計算書」を公表します。

なお、算出の根拠になる普通会計とは、各地方公共団体の比較ができるよう、一般会計や特別会計とは別に一定の基準で区分しなおした会計のことで、

バランスシート

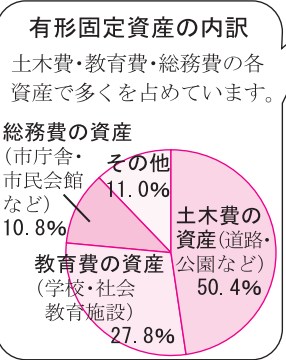
市の資産や借金がわかるバランスシート

バランスシートとは、市の資産と、それを得るための資金をどのように調達したかを一覧にした表のことです。19年度のバランスシートは右下の表のとおりです。市の保有する資産(土地や建物、貯金など)と借金の額などがわかります。

平成19年度普通会計バランスシート

(平成20年3月31日現在)

資金を使った結果何になったか(借方) 資産 合計 1031億3287万円	資金をどのようにして調達したか(貸方) 負債と正味資産 合計 1031億3287万円
有形固定資産 935億9978万円(90.8%) 土地(道路・公園など)や建物(市庁舎・学校など)	負債 322億680万円(31.2%) 今後負担していく地方債や退職給与引当金など <small>※年度末に在職している職員全員(年度末退職者を除く)が退職したと仮定した場合の退職金の合計</small>
流動資産 53億5776万円(5.2%) 財政調整基金や現金など	正味資産 709億2607万円(68.8%) 今までの支払いに充ててきた市民の税金や国や都からの支出金など
投資など 41億7533万円(4.0%) 用途が決まっている基金や出資金・貸付金など	

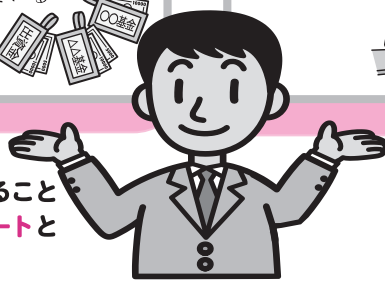


バランスシートでは、表の左側に「資産」を、右側に「負債」と今までの負担によって形成された「正味資産」を表示しています。表の左側と右側は「資産」「負債」+「正味資産」という関係になり、必ず左右が同額で釣り合うことからバランスシートと呼ばれています。

なお、市のバランスシートは民間企業のものとは異なり、資本という概念がありません。民間企業

でいう「資本」は、市では「正味資産」にあたります。

左と右の額が必ず同じ額になることから「バランスシート」と呼ばれます



増えたためです。負債は18年度に比べ、約4億4811万円減少しました。これは、過去に借り入れた地方債の償還が終了したためです。資産から負債を差し引いた正味資産は、約21億7284万円増加しました。

行政コスト計算書

行政サービスにかかった費用や財源がわかります

市の活動は、人的サービスや給付サービスなど、バランスシート上では見えない行政サービスが大きな割合を占めています。そのため、行政サービスの提供にどのくらいのコスト(費用)がかかり、そのコストをどのような財源で賄っているかをわかりやすくするために、行政コスト計算書を作成しました。19年度の行政コスト計算書は7ページの表のとおりです。

行政コストには、現金の支出だけでなく、減価償却費など現金では支出されない経費についても計上しています。

平成19年度普通会計行政コスト計算書

(平成19年4月1日~20年3月31日)

◎行政コスト ~どの性質のものにどのくらいのコストがかけられたか~

行政コスト合計 a 323億4360万円	
人にかかるコスト 80億7564万円(25.0%) 議員報酬、職員の給料や退職金など	物にかかるコスト 78億6397万円(24.3%) 消耗品費、ごみ収集などの委託料、施設管理運営費、修繕料など
移転支的コスト 158億6504万円(49.1%) 高齢者や児童への手当、特別会計への繰出金、市民団体への補助金など	その他のコスト 5億3895万円(1.6%) 市の借金返済のうち利子分、徴収できなかった税金など

◎収入項目 ~行政コストにどんな財源がどれだけかかったか~

収入合計 325億586万円	
使用料・手数料など 20億7303万円 b 保育料、ごみ収集手数料、自転車等駐車場や市の施設を利用したときに支払う使用料など	行政コストに占める使用料・手数料などの割合 b/a 6.4%
国庫(都)支出金 77億8019万円 c 市が行う行政サービスに対する国や都からの補助金など	行政コストに占める国庫(都)支出金の割合 c/a 24.1%
一般財源 226億5264万円 d 市民税や固定資産税などの市税、地方交付税や地方消費税交付金などの交付金	行政コストに占める一般財源の割合 d/a 70.0%

※減価償却費はバランスシートに計上されている有形固定資産(土地や建物など)について、減価償却により19年度に資産価値が減少したものを行政コストとしてとらえたものです。「物にかかるコスト」に含まれません。

18年度に比べ行政コストは約18億8400万円増加
 行政コストは約18億8400万円増加しました。これは、退職給与引当金に充てるためのお金など人にかかるコストが約10億9000万円増加したことに加え、移転支的コストが約6億7600万円、物にかかるコスト

が約2億1400万円増加したことなどが要因です。

◇◇◇
 バランスシートと行政コスト計算書は、市ホームページでもご覧になれます。今後わかりやすく財政の状況を公表していきます。※詳しくは、財政課へ。

児童センター「ばれっと」が開館5周年を迎えました

10月1日の開館記念日に、ミニミニ運動会と綱引き大会を行いました。12月には高校生自主企画のロックライブも行う予定です。



かめらにゅーす

いきいき健康フェスティバルが行われました



9月23日、あいぼっくで開催され、健康・体力測定、講演会、バザーなどに多くの市民が訪れました。当日は、瑞雲中学校ボランティア部が会場案内などの運営を手伝いました。

